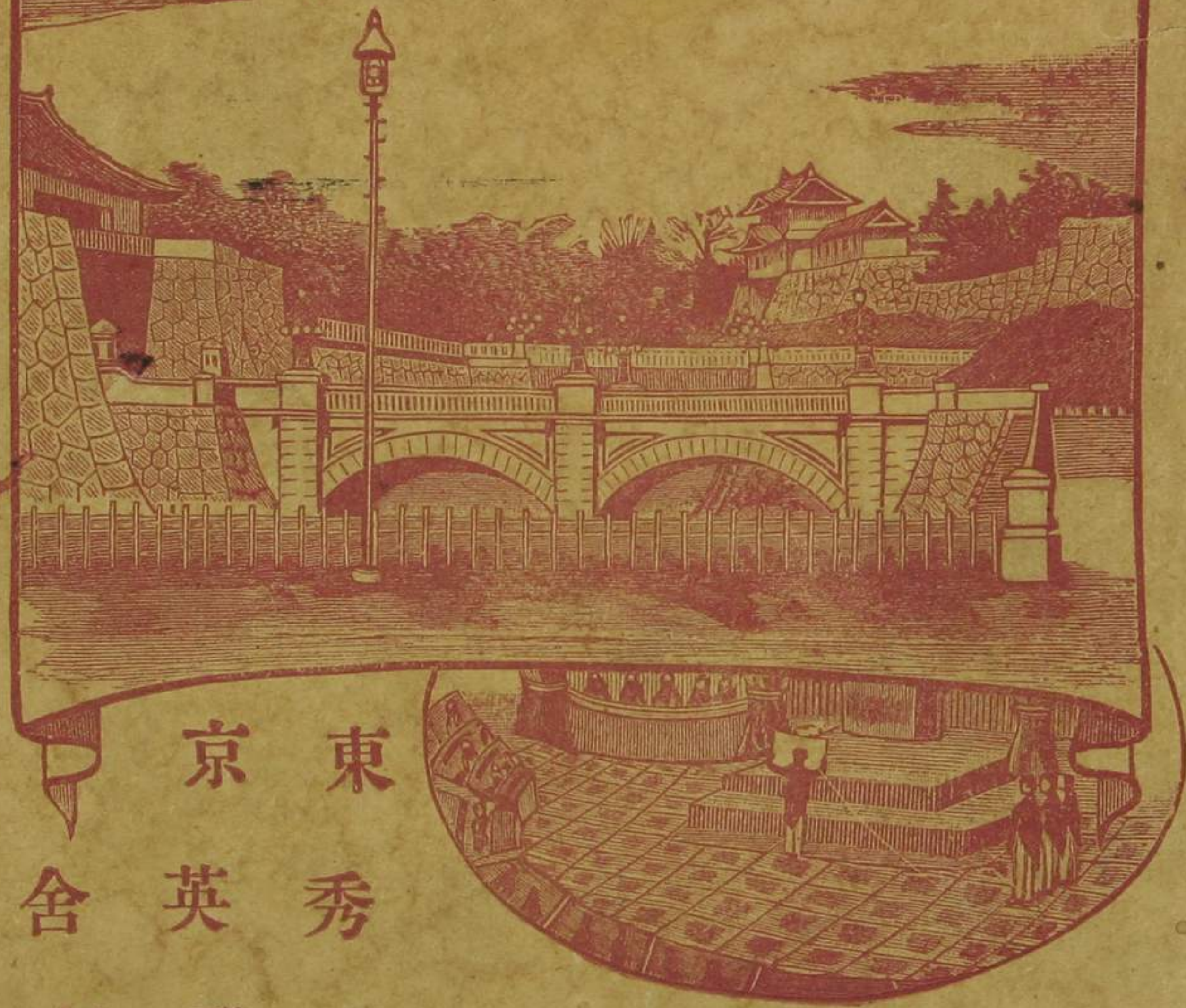
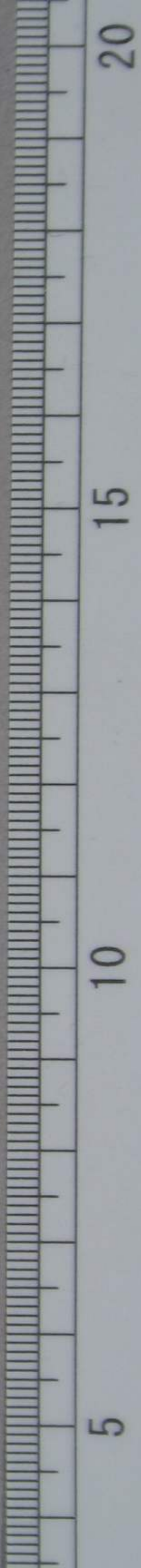
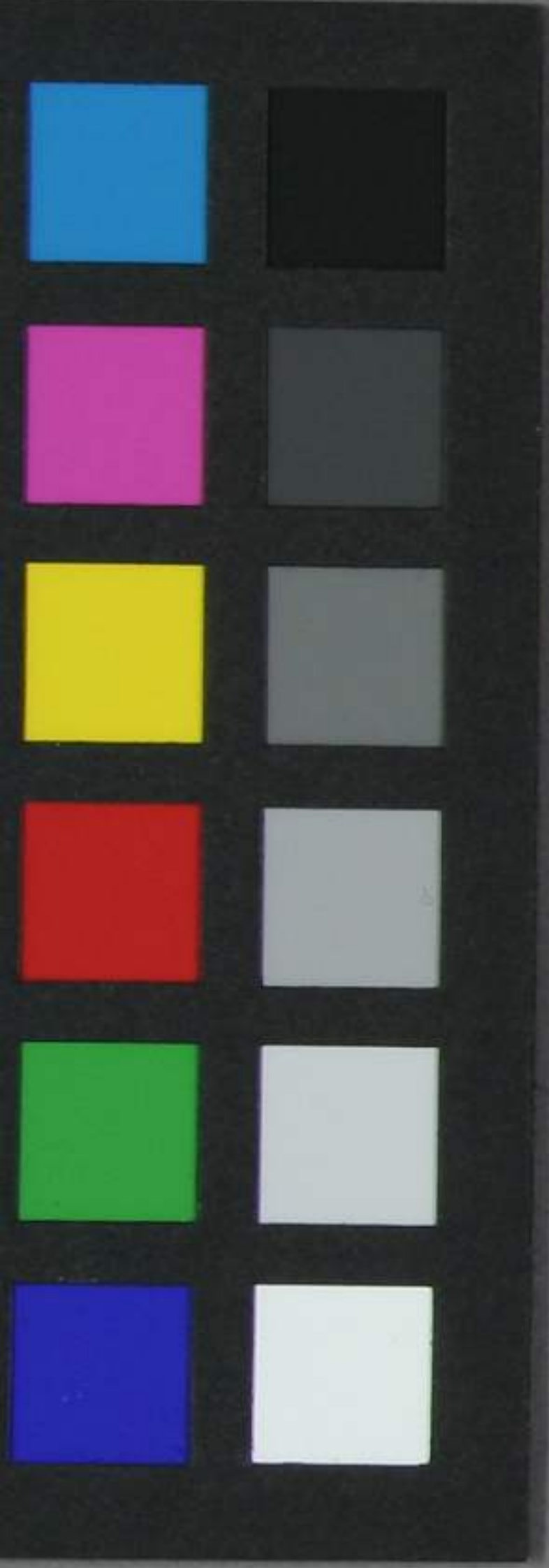


落合直文先生作歌校閱
 栗島山之助先生作歌
 山田源一郎先生作曲

教育勅語唱歌

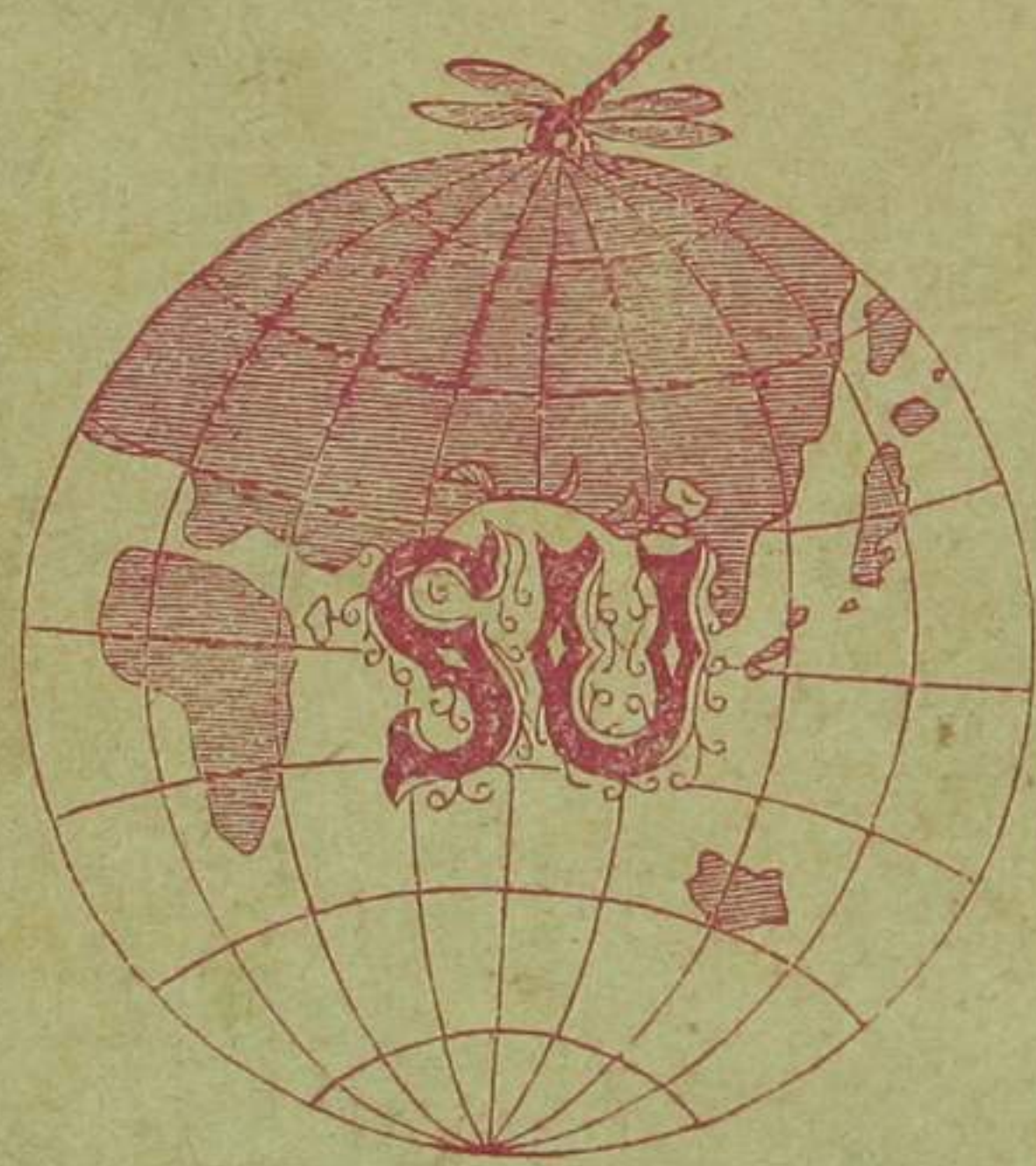


東京
 英秀
 舍發
 行





萩山乃里



HASHIZUME.

Hashizume.

落合直文先生作歌校閱
栗島山之助先生作歌

教育勅語唱歌

東京音樂學校教授
高等師範學校講師

山田源一郎先生作曲

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏
遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克
ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥
ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシ
テ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母
ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ
恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ
業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ
進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重
シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉
シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ
如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス
又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ
子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ
通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕
爾臣民ト俱ニ拳拳服膺シテ咸其德ヲ一ニ
センコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

教育勅語唱歌

山田源一郎作曲



3 3 2 2 | 1 1 6 6 | 5 5 1 2 | 3-0 |
カ-メノ ヤマノ イハカドヲ
かみちの や-まに くもきえて



5 5 5 3 | 6 5 3 2 | 1 1 2 3 | 2-0 |
ト-メ テナガ ルル オホタキノ
つ-きにきらめく いすずかは



1 1 6 5 | 1 1 6 5 | 3 3 2 1 | 3-0 |
ミダレテ オ-ツル シラタマハ
ふ-かきめぐみの うるほへば



5 5 6 5 | 3 3 2 1 | 5 3 2 2 | 1-0 ||
キ-ミガ ヨハヒノ カズナラム
あをひと ぐ-さも なびくなり

一、龜の尾山の巖角を

こめて流るゝ大瀧の

みだれて落つる白珠は

君がよはひの數ならむ

二、神路の山に雲消えて

月にきらめく五十鈴川

深きめぐみのうるほへば

人民もなびくなり

朕惟フニ
我カ皇祖
皇宗國ヲ
肇ムルコ
ト宏遠ニ

徳ヲ樹ツ
ルコト深
厚ナリ

三、國くにの礎いしずらすゑまし、

皇祖すめらみ皇宗みおやのいさをしは

天あまつ日影ひかげこかゝやきて

仰あふぎまつるもかしこしや

四、まして尊たふさき大八洲おほやしま

瑞穂みづほの國くにに生うまれきて

明あきらけき世よにいで逢あひし

わが同胞ほらのうれしさよ

我カ臣民
克ク忠ニ

五、されば我等われらが大君おほぎみに

さゝげまつれる真心まごころは

色いろさへ深ふかき真榊まごころの

こはに變かはらぬ節操みさをなり

克ク孝ニ

六、されば我等われらが父母ちちはいに

事つかへまつれる真心まごころは

御園みそのに生おふる吳竹くれたけの

千代ちよも變かはらぬ孝養つよめなり

億兆心ヲ
一ニシテ

世々厥ノ
美ヲ濟セ
ルハ

此レ我ガ
國體ノ精
華ニシテ

教育ノ淵
源亦實ニ
此ニ存ス

七、げにさまぐの心にも

違ふことなきあり様は

代々にほまれを残してぞ

年の三千年経たりける

八、こは國體かうまし國

匂ふや花と咲きいで、

根ざしもこゝに固ければ

實をこそ結べ教へ草

爾臣民父
母ニ孝ニ

九、あな尊しや天皇が

天つ御祖の御心を

今かしこくも承け嗣がせ

くだし給へる勅語

十、千代も祈る心から

身も惜しからずはぐみて

おほし立てたるたらちねの

親な忘れそ人の子よ

十六、なさけは深き父のみの

おもひは深き母そばの

めぐみの露をうけてこそ

色には出づれ撫子よ

十七、されば夜々なく鶴の

あやなき聲を耳にして

焼野にさわぐ雉にも

つらき思ひを知れよた

兄弟ニ友

十八、篠田の森の楠木の

千枝にわかれて繁れども

ひこしき地に生ひ立ちて

根ざしは同じ兄弟よ

十九、かたみに盡す信實は

翼をかばす鳥の身の

暴ぶあらしもよそにして

時にねぶる寒苦鳥

五、見みふ兄弟はらからふ汝等いましらが

信實まことかはして世よに立たたば

實げにたぐひなき親睦したしみの

山やまも拔ぬくべき力ちからあり

六、あなたふとしや天皇すめらぎが

天あまつ御祖みおやの御心みこころを

今いまかしこくも承うけ嗣つがせ

下くだしたたまへる勅語みことごのり

七、常磐とこよほの松まつも相生あひおいの

枝えだをつらねて住すの江えに

翠あざりの色いろをかさねては

千ちこそ経へぬべき夫婦いもめよ

八、春はるの光ひかりのうら、げく

風かぜも通かよはぬ花はなの野のに

胡蝶こてふの夢ゆめのさめざらば

げに汝等いましらは安やすからむ

六、彼處の岡にこの水に

遊びくらしめてきては又
雪に螢に身を寄せて

三、うき事繁き世なれども

心の底をうちあけて
互に信實つくしなば
げに汝等は安からむ

廿、あなたふとしや天皇が

天つ御祖の御心を

今かしこくも承け嗣がせ

下したまへる勅語

廿、彼のちりひぢもいつしかに

雲ぬる峯とあらはるゝ

ふるき例をかへり見て

恭儉なれ諸人よ

博愛衆ニ
及ホシ

廿三、仰げば高き大空の

日影は遠く天地に

至り至らぬなきがごと

博き愛情を布けよ人

廿四、まそみの鏡こま劔

くもりもあらぬ人の身の

智慧の光もみが、ずば

などかは世々を照すべき

學ヲ修ヒメ
業ヲ習ヒメ
以テ智ヲ能
ヲ啓テ能
徳ヲ成シ
就器ヲ成

廿五、學びの道のいや深く

いそしむ業の撓みなく

穢れぬ操きよき名の

朽ちぬほまれを殘すべし

廿六、あなたふとしや天皇が

天つ御祖のみこゝろを

今かしこくも承け嗣がせ

下したまへる勅語

進^ニテ公
益^ヲ廣^メ
世^ヲ務^メ
開^キ

常^ニ國^憲
ヲ重^シ
國^法
ニ遵^ヒ

廿七、おほやけわざのいこなみに

人^を誘^ひ世^を開^き

務^めはげむは諸^人の

御^國につくす義^務なり

廿八、國^の掟^に従^ひて

法^律にたがはぬ行^ひの

人^のかゝみこならむこそ

御^國につくす義^務なれ

一^日緩^急
ア^レハ

廿九、世^は苜^蓆こみだれつゝ

黒^雲四^方にふさがりて

大^御心^もやすからず

國^はうれひに沈^む時^も

義^勇公^ニ
奉^シ

三十、やよ大丈夫^よ奮^ひ立^ち

取^り佩^く太^刀も物^部の

ふるきためしを梓^弓

ひきてはあこに返^すなよ

卅一、波なみたちさわぐ海原うなばらに

水漬みづく屍かばねも君きみがため

あらし吹ふきたつ山蔭やまかげに

草くさむす屍かばねも君きみがため

卅二、猛たけく雄を々いしき諸人もろびとよ

あやにかしこき大君おほきみの

まけのまにくいそしむは

御國みくににつくす義務つとめなり

卅三、あなたふとしや天皇てめろぎが

天あまつ御祖みおやのみこゝるを

今いまかしこくも承うけつがせ

下くだしたまへるゝ勅語みことごり

卅四、天地あめつちのむたかぎりなき

國くにの榮さかにをすゝめつゝ

君きみの御威みい稜つをあふぎつゝ

つくせ諸人もろびと諸もろ共にとも

以テ天壤
無窮ノ皇
運ヲ扶翼
スヘシ

是ノ如キ
ハ獨リ朕
カ忠良ノ
臣民タル
ス

又以テ爾
祖先ノ遺
風ヲ顯彰
スルニ足
ラス

卅五、あやに尊たふさき御みこゝろは

かゝる民たみをば天皇すめらわが

深ふかくも頼たのむ御寶み たからと

大御詞おほみことばにのたまひぬ

卅六、あやに尊たふさき御心みこころは

かゝる民たみをば祖先さほつおやの

その御手振みてぶりにかなふぞと

大御詞おほみことばにのたまひぬ

斯ノ道ハ
皇祖皇宗
シテ遺訓ニ

卅七、あゝこの道みちは上あがつ代よに

國くにの御柱みはしらたてそめし

天あまつ御祖みおやのみこゝろを

傳つたへまのつれる教をしへなり

卅八、高天原たかまのほらに神集かみつじへ

つごへたまひて種くさぐさ々の

天あまつたからを下くだしては

のらせ給たまひし勅語みことり

其、その御こそばの世々を経て

花と咲き出で葉と繁り

今かしこくも天皇が

のらせ給へる勅語

子孫臣民

早、御裳裾河の末長く

にぎはひ出でし諸人よ

山田が原に繁りては

つきせず生ふる民艸よ

共ニ遵守
スヘキ所

四、汝が守るみこそばは

かしこき君が勅語

汝が守るみをしへは

たふこき君が勅語

四、今もむかしもこの末も

世に布きはへて謬らず

國の中外に施して

もそこらぬ道こそ尊けれ

之ヲ古今
ニ通シテ
謬ラス之
ヲ中外ニ
施シテ悖
ラス

朕爾臣民
ト俱ニ眷
々服膺シ
テ厥其德
ヲ一ニセ
ンコトヲ
庶幾フ

四三、あやに尊たふさきみこゝろは

この御み詞ことばを諸もろ人びとと

守まもらせたまふ御みめぐみの

例ためしもああらぬ勅みこと語のり

四、そも明あきらけき大御代おほみよを

ひらき給たまひし大君おほぎみが

高たかき勳績いさをを仰あふぎ見みば

げに日ひの光月ひかりつきのかげ

四五、つゆも曇くもらぬ聖旨みことゝろは

たぐひあらしの花はなの色いろ

十返とこり咲さきてその香かさへ

千代ちよに八千代やちよにつきせじな

四六、頃ころしも秋あきの日ひかゝやきて

雲くももかゝらぬ大空おほそらに

松風まつかぜきよく吹ふきたちて

天あまつ小琴こごの音ねぞ通かよふ

日、菊きくのかわりもいや高さたか

千代田ちよだの官みやの大前おほまへに

この勅語みことのり下されし

その日は吉いくすめ辰たるひぞや

哭なみ心に深く止め置おきて

大御詞おほみことばを忘わすれずに

君きみの御心みこころやすめつゝ

盡つくせ諸人しよびと諸共しよともに

明治二十三年十月三十日

明治三十三年十二月十日印刷
同 卅三年十二月十五日發行

定價金六錢

著作權
所有

作歌校閱者 落合直文

作歌者 栗島山之助

作曲者 山田源一郎

發行兼印刷者 今關榮藏

東京京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行所 秀英舍

關西大賣捌 備後町四丁目 吉岡平助

軍艦唱 陸軍唱
歌全一册 定價金六錢
歌全一册 定價金六錢